

令和5年 7月27日 (火)

あさひの日だまり

NO.17

辰野町立辰野東小学校 文責 片桐

～1学期が終わります～

休み明け、元気なみなさんとの再会を楽しみにしています

子どもたちは自分だけのいろいろな思い出を作って1学期が終わります。思い出ただけで楽しい気持ちになるような思い出。一生忘れることがないような大切にしたい思い出。思い出ただけでその時の悲しい気持ちがよみがえってしまうような思い出。なかなかうまくいかなくて悔しい気持ちが残っている思い出。色々あると思います。私たち職員は、子どもたちにとっての楽しい思い出、嬉しい思い出、悲しい思い出、悔しい思い出そのすべてが、その子の心の成長に結びつくように子どもたちと話をしてきました。しかしながら、私たちの願い通りにすべてことが進んではないと思っています。子どもの中には忘れてしまいたい思い出を心に刻んでいる子もいると思います。そのお子さんにとって、学校は安心安全で楽しいところではなくなってしまっています。その現実をこの機会に深く反省し今後精一杯改善していけるようにしなくてはならないと思っております。

1学期の終業式に子どもたちにお話しした内容を下に記しました。目を通していただけたら幸いです。

皆さんはこの世界に生まれてくる前、「この世界に生まれたいので、どうぞ命をください」と誰かにお願いしましたか？

この世界に生まれてくることを自分で決めた人は誰一人いないですね。

先生はこう思うんです。もしかしたら、皆さん一人ひとりに与えられているかけがえのない大切な命は、広い宇宙を創った神様が「この大切な命はあなたが持って生まれなさい」「この大切な命はこちらのあなたが持って生まれなさい」と決めてくれて、私たちにひとつずつ大切な命を貸し出してくれているんじゃないかって。

そして、命には貸出期間みたいなものがあるって、その期限が来たらまた神様にお返しすんだって思うんです。命を借りしている時間が長い人もいれば短い人もいます。その時間の長さは人それぞれだけど、大切なのは、その長さじゃないんです。尊い命を自分が借りることができたことが奇跡的なことだって思うんです。皆さん一人ひとりがこうしてこの世界に生まれてこられたことがとっても大切なことで、だから今預かっているその命を大切にしてくださいね。

今の4年生に巻渕尚煌（まきぶちなおき）くんがいました。2年前の8月15日、巻渕くんのご家族は神様からお借りしていた大切な命を神様にお返ししました。巻渕くんも皆さんと同じようにお借りした命を大切に大切に生きました。そして、この世界ができてからの長い長い時間から見れば、巻渕くんは、みなさんよりほんの少しだけ早く神様に命をお返ししたのです。

命を大切にすることってどうしたらいいか、先生考えてみました。

それは、お借りしている命を使って何かに挑戦してみることです。そして、挑戦することを心から楽しむんです。それがお借りしている命を大切にしていることだと思うんです。

夏休みが始まります。「この休みに一冊の本を読み切ろう！」という挑戦。読書は、本の中に新しい出会いを求める素敵な挑戦です。「今まで写真の中でしか見たことのない美しい花の種を庭にまいて、花を咲かせてみる」とこれも素敵な挑戦です。「夏休みに毎日ご飯を炊く係をやろう！」っていうのもいいじゃないですか。もし忘れたら家の人たちみんな朝ごはん抜きです。「一人で電車に乗っておばあちゃんちへ行くこと」もしかすれば電車にのり間違えてしまうかもしれません。どちらもドキドキするすごい挑戦です。

夏休みは何か挑戦する最高のチャンスです。どうぞ、思いっきり挑戦のドキドキ感を楽しんで下さい。

休み明け、元気なみなさんの顔に昇降口で会えることを心から楽しみにしています。

先生のお話は以上です。